

2022' 3 DancersWeb

トップインタビュー Vol.80



佐藤圭／バレエダンサー

「ダンサーが踊りたいと思ってもらえる作品を創りたい」

長身でスラリとした体躯と洗練された雰囲気漂うバレエダンサーの佐藤圭。NBA バレエ団プリンシパルとして活躍したのち、現在はフリーとして新たに始動中。その第一段として、Kei Star Ballet 第1回公演『Rachmaninov Piano Concerto No.2&Paquita』が5月8日にハーモニーホール座間 大ホールにて開催される。赤の花柄の華やかなブラウスで登場してくれた佐藤さんと、愛犬のトイプードルが見守る中、その制作裏話とこれまでのバレエライフについて真摯に語ってくれた。



本作は2部構成となっていますが、佐藤さんは振付だけでなく出演もされるのでしょうか？

「パキータ」は主演で出演し、「ラフマニノフ」は第2楽章だけ出演に出演する予定です。

ー 本作の出演者は、NBA バレエ団ソリストの刑部星矢さんやNBA バレエ団アーティストのほか、佐藤さんの生徒さんも出演されるようですね。

バレエは結局、舞台にたつための芸術という思いもあって私が教えている生徒さんにいつか舞台に立ってほしいといった気持ちがありました。

K バレエスクールで曲の選曲から振付をさせてもらったことが何回かあったのですが、その頃から「私、結構創作好きなのかな？」という経験がありました。

いつか新しい作品を創りたいという気持ちがあったのが、今回の新作につながったと思います。気がついたらホールを押さえる行動に出てしまっていました（笑）。

生徒さんに踊ってもらう場所を創りたかったというのが一番の動機です。

ー 「ラフマニノフがこの協奏曲に込めた強い想いを私なりにどうしても、バレエで表現したい」と思われたきっかけは何でしょうか？

クラシックの中で、私は基本的に重めの感じの音楽がしっくりきます。色々な作曲家の曲を聴きましたが、一番想像力をかき立てられるのがラフマニノフなんです。ぐっと心に響きますね。

ラフマニノフピアノ協奏曲第2番は、第1楽章から3楽章まですべて使います。

いま、ラフマニノフに関する書籍を読んでいるところですが、彼のことを知るにつれ、やはりすべての楽章を使いたい思いになりました。

それによると、協奏曲第1番が不評に終わり、精神的に深いダメージを受け長年作曲活動ができずにいたのですが、その後、故郷に帰ったときに作曲したのが第2番です。

苦悩から立ち上がり、創作をあきらめなかった作品。良い曲をつくるんだという信念が込められていると思うので苦悩を乗り越えていく姿を描きたいと思います。

ー 創作過程でもっとも苦勞している点は？

音楽に単純に振り付ける作業ではなく、やはり表現の部分だったり第1楽章から3楽章の中で、

ダンサーが乗り越えている姿をどう表現できるか、伝わる振りにすることはかなりの労力がいりますね（笑）。

スムーズに進むこともあります。たった十数秒の振りを何回も振り直したり、その繰り返しです。今、第2楽章まで8割ほどできたところです。

— いつも創作はどのような形で進められているのでしょうか？

私の場合は、まず曲選びからはじめますね。

人類が創る創造の世界の中で、私は一番音楽が美しいと感じます。オーケストラが奏でる美しい曲に振り付けてみたいと思う一方で、無名な私などが振り付けて申し訳ない気持ちがあり、天国でラフマニノフはビックリするかもしれない（笑）。

— 3歳からバレエを始めたきっかけを教えてください

母は小さい頃習いたかったのにできなかったという思いがあり、私をバレエ教室に連れて行ったらいいです。その後は「続けたかったらやればいいし、合わなかったら止めていいよ」と子どもの気持ちを尊重してくれる母でした。

最初に通ったお教室は、先生がとても厳しかったのを覚えています。引っ越しも重なってバレエとはいったん離れました。そのあと、出身地の群馬に戻ったときに、友達がバレエを習うので、「それなら私も」といっしょに行ったのが再開のきっかけです。

— プロのダンサーになる前にもっとも記憶に残る発表会はありますか？

中学生のときに発表会でソロを踊ることになったんですが、それまでは大勢の中のひとりだったので、拍手をもらっても強い感動を覚えることはなかったのですが、そのソロのカーテンコールのとき、「これは、私だけにもらっている拍手なの？」ってすごく嬉しかったことを覚えています。やりがいを感じました。

— 学生時代にバレエ以外で熱中したものはありますか？

小学生のときから絵が好きでした。中学生では美術部に入り油絵も描いていたんですが、顧問の先生からテクニックを教わるというより自由に描きなさいという感じだったので、まったくの独学でしたが両親は「こんな絵心があったなんて！」とビックリしていたのを記憶しています。ファッションも好きです。もしダンサーでなかったら、そういう方面の道を選んでいたかもしれないですね。

— 今回の新作の舞台で衣裳デザインに関わるのでしょうか？

以前、自分でデザイン画を書いて創ってもらったことがあります。今回はイチから創るのは予算的に難しかったのですが、私のイメージにもっとも近い衣裳を選んでいきます。

— とても思い出深いコンクールがあると伺ったのですが？

表彰式に帰っちゃった話ですね（笑）。

第58回全国舞踊コンクール・シニアの部で第1位をいただいたのですが、そのときは、まさか決勝にも残ると思っていなかったもので、出場後はすぐ会場を後にして、お教室の先生に挨拶に行ってから家に帰ろうと思っていたのですが、先生に会ったら「今、電話があって表彰式に出てほしいって探しているわよ」。

私は器用に踊れるタイプではないですし、身長は168センチあって高い方ですが、その分、身体を上手くコントロールできずにバラバラになってしまったり、ケガもよくありました。

自信もなくなっていたところで、入賞するはずがないと思っていたので、ビックリしました。もう少し頑張ってみようかなと（笑）。

— 今振り返って、ターニングポイントになった出演舞台は何でしょうか？

30歳前半にKバレエカンパニーのゲストダンサーとして「ドン・キホーテ」にメルセデスと森の女王役で出演させていただいたのですが、自分で満足が行く舞台が踏めなかったんです。リハーサルでは失敗しなかったのに、本番で力みすぎて悔しい思いをしました。そのときの悔しさが残っていて、2回目に踊る機会をもらったときには隙間の時間に自分でレンタルスタジオ借りて、自主リハーサルしました。

これだけ練習したら、本番でもし間違ってもなんとかなるという度胸がつかえました。本番は自信をもって舞台を踏むことができました。そのときのお客さんの熱い視線は忘れられないです。

— バレエを離れた時期が1年半ぐらいあったそうですね。

海外のバレエ団のオーディションをいくつか受けたのですが、何度も落ちて言葉もよく通じなかったもので、かなり塞ぎ込みました。25歳のころ日本に帰国してから1年半ぐらい、バレエから離れました。そのときは、落ち込むというよりは、私には成功するほどの才能はないんだって

開き直ってスッキリした感じはありました。

しがみつくものがなくなり、頑張るものがなくなった。「無」になった感覚でした。

とにかくバレエから離れたくて、でも身体を動かすのが好きだったのでジムのインストラクターをしていた時期がありました。

— その後、バレエに戻ったきっかけはなんでしょう？

お教室の先生が戻してくれました。その前に、辞める前に先生のところに挨拶に行きました。

「申し訳ないです。私はもうバレエを続ける自信もありません」。

「でもせっかくここまで続けてきたんだからレッスンだけは受けたら？」と言われて、号泣してしまった自分に驚きました。

1年半何もレッスンしていなかったので、ポジションも全然入らなくて。まずはプリエからはじめて、少しずつ再開しました。そのうち先生が、「舞台に出てみれば？」「オーディション行ってみたら？」と今に至ります（笑）。

— 先生は今回の主催公演について何かおっしゃっていましたか？

「これまで頑張ってきたから、こういうチャンスがあるのよ。応援しているから」と、おっしゃってくださって、とても感謝しています。

— 今後踊ってみたい作品はありますか？

高度なテクニックが必要な振付を追い求める気持ちはあまりないのですが、経験とともに表現の幅は広がったと思うので、私にしかできない作品を踊ってみたい。

— これからの目標をシェアしていただけますか？

今は新作に向けて精一杯、やるしかない目の目標がありますが、ここまでバレエに育てもらい、バレエ業界に貢献したいと思っています。そして、私の作品を踊りたいとダンサーが思ってくれる作品を創りたいですね。

Kei Star Ballet 第1回公演

『Rachmaninov Piano Concerto No.2&Paquita』

2022年5月8日(日)ハーモニーホール座間 大ホール

<http://confetti-web.com/keistarballet/>

【佐藤圭プロフィール】

第 32 回埼玉県全国舞踊コンクール シニアの部 第 1 位。NBA 全国舞踊コンクール シニアの部 第 1 位。第 58 回全国舞踊コンクール シニアの部 第 1 位、分部化学大臣賞、東京都知事賞、東京新聞賞、ルフトハンザ航空賞受賞。2017 年 NBA バレエ団プリンシパルとして入団「白鳥の湖」オデット／オディールや「真夏の夜の夢」タイターニアなど数々の主演を務める。2021 年「くるみ割り人形」主演をもって退団。現在は現役ダンサーを続けながら今回の Kei Star Ballet パフォーマンスを主催するなどフリーで活動。